

地震

これまで、地震は全国各地で大きな被害をもたらしてきました。地震は予知することが難しいため、日頃からの備えや地震発生時に適切な行動をとることができるかどうかで、被害の有無やその程度が大きく変わってきます。

地震発生確率と美馬市における被害想定

区分	南海トラフ地震	中央構造線・活断層地震
地震の発生間隔	短い(100年~200年間隔)	長い(千年~1万年間隔)
地震の規模(マグニチュード)	M8~M9	M8以上
市内ほぼ全域における震度	震度6弱~6強	震度5弱~6強
今後30年以内の発生確率	70~80%	ほぼ0~0.4%
被害想定	死者数	80名
	負傷者数	650名
		110名
		770名

徳島県地域防災計画「南海トラフ地震対策編-被害想定」・「直下型地震対策編-被害想定」より

地震発生時の安全確保のポイント

地震発生 緊急地震速報を聞いたり大きな揺れを感じても、慌てて外に飛び出したり、火元を閉じようとせず、まずは身の安全を確保することが第一

安全確保行動 揺れを感じたらシェイクアウト

- まず低く
- 頭を守り
- 動かない

揺れが収まってから

- 火の始末
- テレビやラジオから正確な情報入手
- 家族の所在や安否を確認
- 避難の必要性を判断
- ブレーカーを落として避難(通電火災防止)
- 出口の確保

大規模店舗にいたら

- 施設係員等の指示に従う
- 慌てて出口や階段に殺到しない
- 吊り下がっている照明等の下から退避

屋外にいたら

- ブロック塀の倒壊に注意し離れる
- 自動販売機の転倒に注意し離れる
- 建物の壁の落下に注意し離れる
- 窓ガラスの落下に注意し離れる

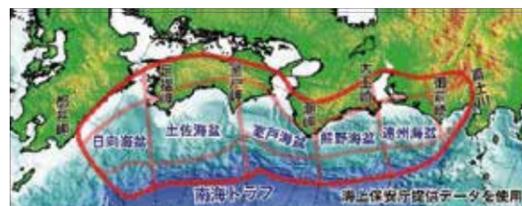
車を運転中だったら

- 慌てて急ハンドルや急ブレーキをかけずに緩やかにスピードを落とす
- ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止

南海トラフ地震

南海トラフ地震は、右図の赤い線で囲まれた南海トラフ沿いのどこかで発生するとされている巨大地震です。

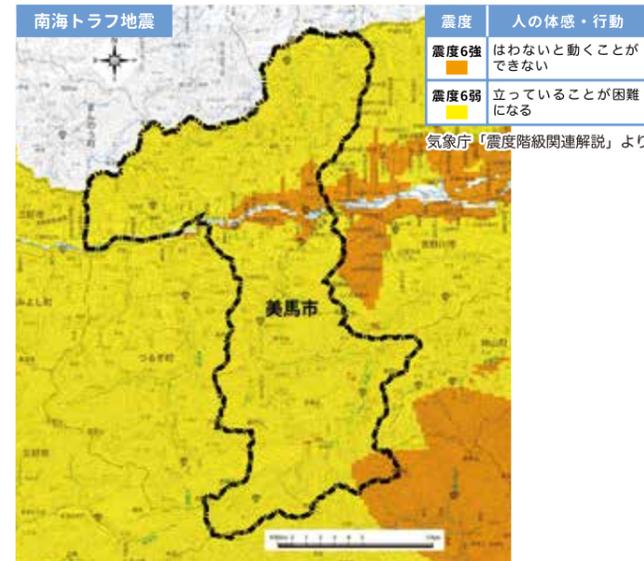
南海トラフ地震の発生が想定されるケース		
半割れケース	一部割れケース	ゆっくりすべりケース
M8以上	M7以上	地震動を感じない
被害は甚大	被害は限定的	被害なし



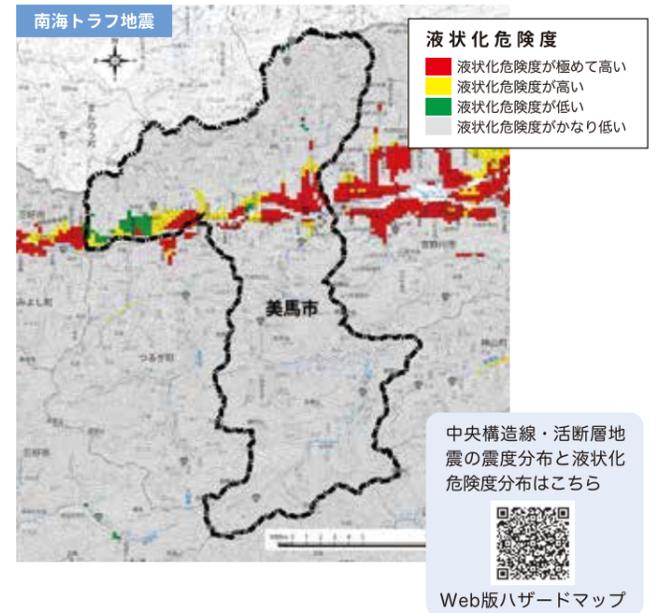
気象庁ホームページ「南海トラフ地震とは」より

避難のポイントはP13.14に掲載 耐震診断支援等の各種支援制度はP17に掲載

震度分布

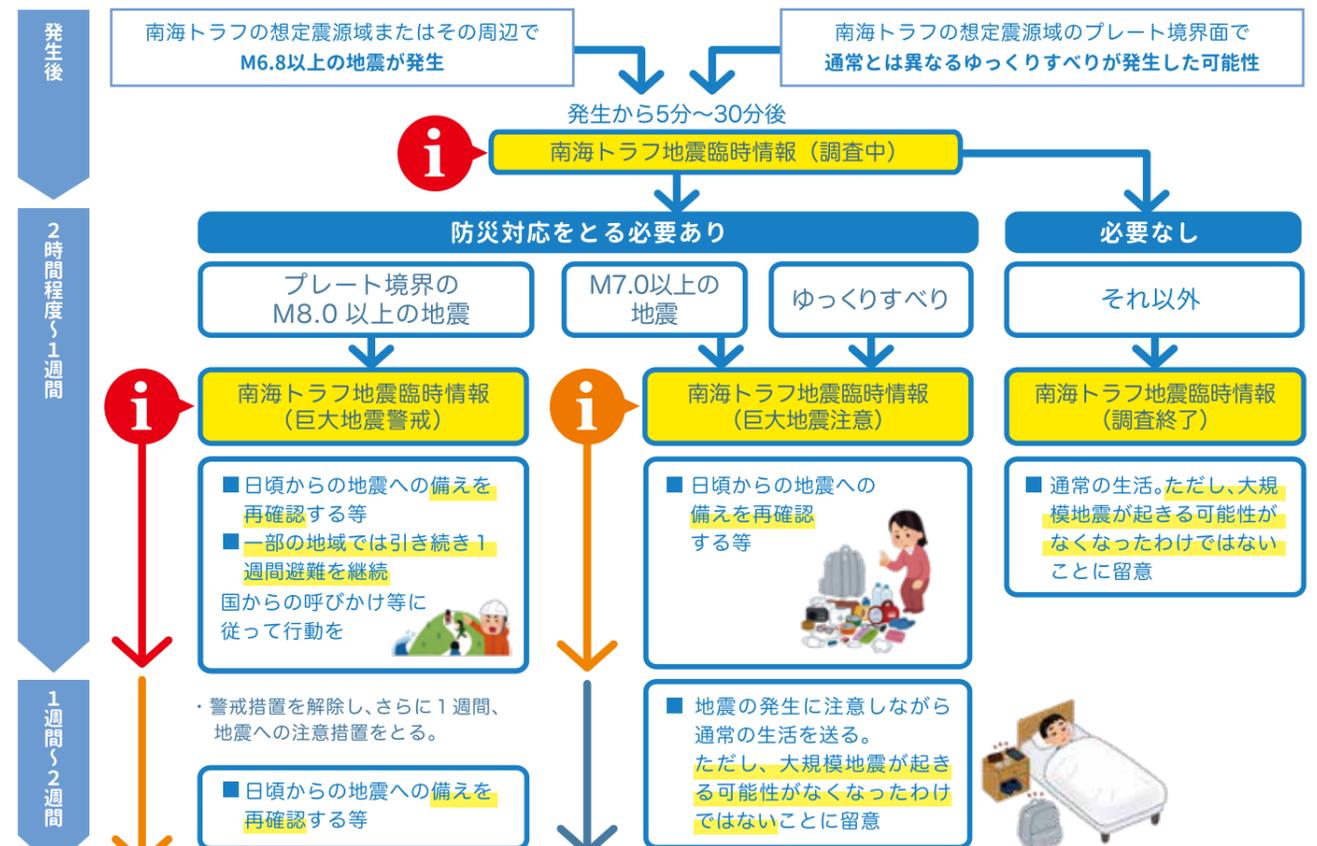


液状化危険度分布



南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ地震臨時情報は、以下の流れで発表されます。この情報が発表された場合は、連動して発生する後続地震から身を守るため、その後1~2週間程度は警戒措置(備蓄品の点検や家族会議の実施等)を取るとともに、地震情報等に注意する必要があります。



内閣府「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応リーフレット」より